

コンサートとオペラを学際研究する

—ヨーロッパ地域研究における共著論文執筆の方法—

日時 2016年11月19日（土）13:30-17:30
場所 早稲田大学早稲田キャンパス 26号館1102会議室

目的

本ワークショップは音楽や演劇を対象とした地域研究の共同研究方法を探るための企画である。論点は下記2点となる。

1) 音楽、演劇研究者に馴染みのない、自然科学系分野での研究上の慣習を知ること。具体的にはデータ共有等を含む共同研究および共著論文執筆の方法、論文のオーサーシップの問題、引用や文献書式の作法等がある。

2) 歌劇の上演目など興行情報を対象とする学際研究の可能性を議論すること。例として地域間比較（ドレスデンとブラハの歌劇場上演傾向比較）、分野横断的研究（一次史料整備とデータベース構築、興行情報の統計学的分析と新聞報道状況を対象とする歴史研究）、ジャンル比較（演奏会プログラムとオペラ上演の相互影響）等がある。

これらをもとに人文科学を主とした共同研究、特に学際研究の際に懸念される具体的な問題について議論し、方法を建設的に探ることを目的としている。

プログラム

【第1部】学際研究に向けたアプローチ：異分野の慣習を共有する
司会：堀内 彩虹（東京大学大学院）

- 趣旨説明 岡本 佳子（東京大学）「各学界における慣習の差異と共有方法」
- 講演 河瀬 彰宏（同志社大学）
「文化現象の解明に向けた学際的共同研究への枠組み構築について」

【第2部】音楽・歌劇の興行情報を対象とする共同研究の可能性
司会：神竹 喜重子（北海道大学）

- 研究報告
大河内 文恵（東京藝術大学）
「ドレスデンの歌劇場におけるオペラ上演の実態調査とそれに付随する問題点」
小石 かつら（京都大学）
「オーケストラ演奏会の実態調査とその活用の試み：
19世紀前半のライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団を例に」
- 総合討論
コメンテーター：辻 昌宏（明治大学） 標葉 靖子（東京大学）
企画アドバイザー：福田 宏（愛知教育大学）